

●みんなで東京の木 スギ、ヒノキを使うと、

苗木が光合成をして二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収して炭素(C)を固定し、成長します。

木材となっても炭素(C)を蓄えられます。



木を伐った後に苗木を植えることで、新しい森林が育っていきます。

木材が暮らしの中で使われている間は炭素(C)を蓄え続けるので、都市でたくさんの木材を使うことは、都市に森林を造ることに近い効果が期待できます。

コラム

●スギやヒノキは建材に適した樹木です

スギやヒノキは、幹がまっすぐに育つので、古来から建材として活用されています。スギはやわらかいので加工しやすく、特有の香りがある木材です。学名(Cryptomeria japonica)に「日本」が入る固有の常緑針葉樹です。本州・四国・九州の屋久島まで分布し、北海道南部まで植林され、植林面積は最大です。ヒノキは加工しやすく、特有の芳香と光沢があり、湿気に強く、長持ちするとともに高い品質の木材です。



発行:東京都産業労働局農林水産部森林課 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 電話 03-5000-7200

制作:シーアンドゼットコミュニケーション株式会社 登録番号(05)200

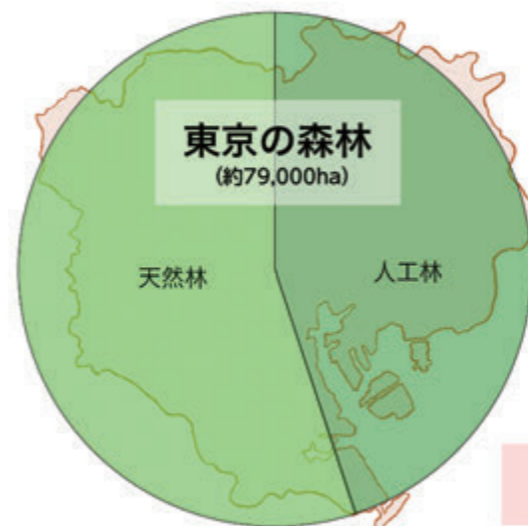
印刷:能登印刷株式会社

この紙は、東京の木25%、古紙75%を配合した東京の木の紙です。



# 東京の森林について知ろう

東京には標高2,017mの亜高山帯の雲取山から亜熱帯の小笠原諸島まで多種多様な森林があります。



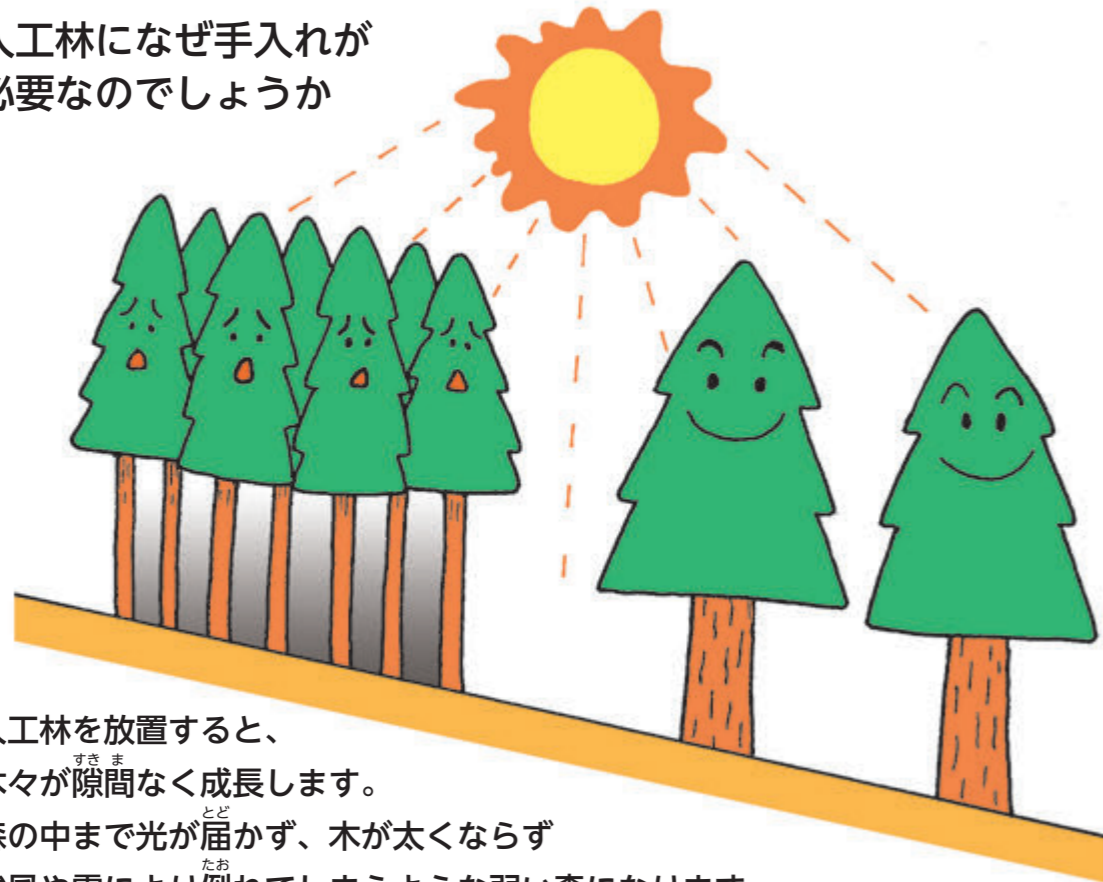
東京の森林面積は、23区よりも広いです。

天然林と人工林の割合は、ほぼ半分ずつです。人工林とは、木材として使うために人の手で植えた森林です。東京では主にスギ、ヒノキです。

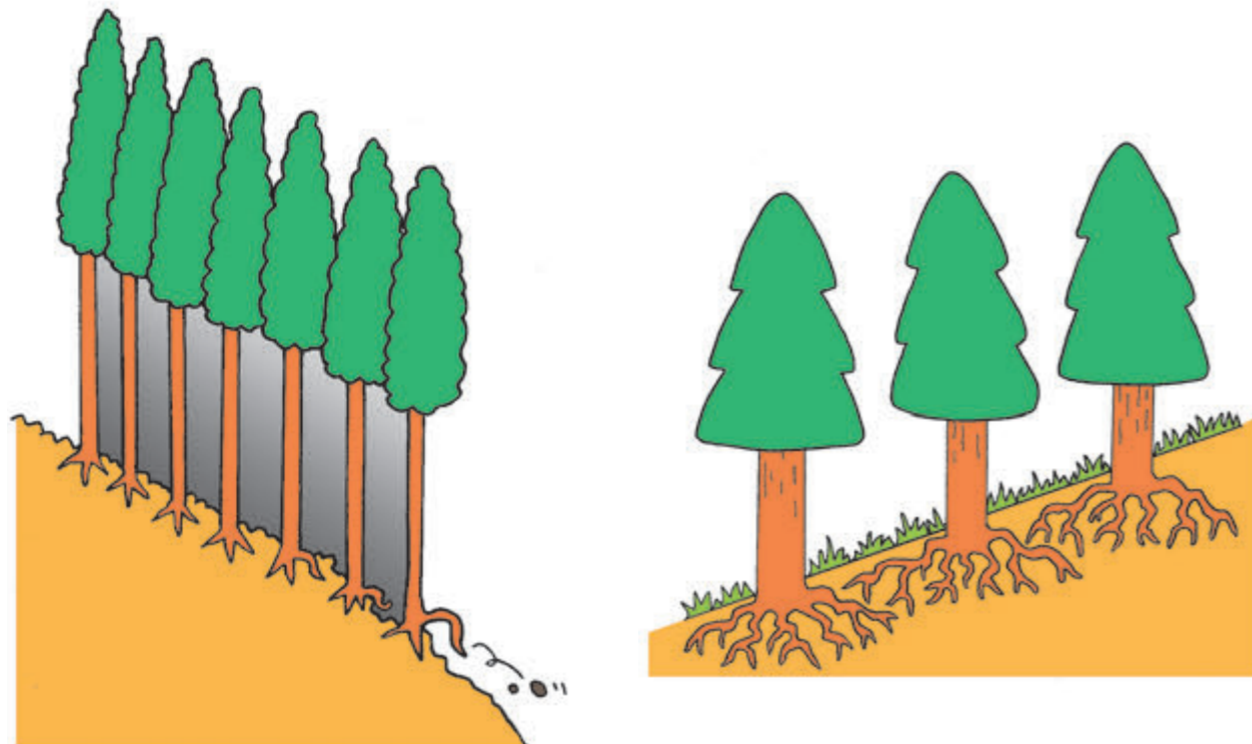
東京23区 (約63,000ha)



●人工林になぜ手入れが必要なのですか



人工林を放置すると、木々が隙間なく成長します。森の中まで光が届かず、木が太くならず強風や雪により倒れてしまうような弱い森になります。

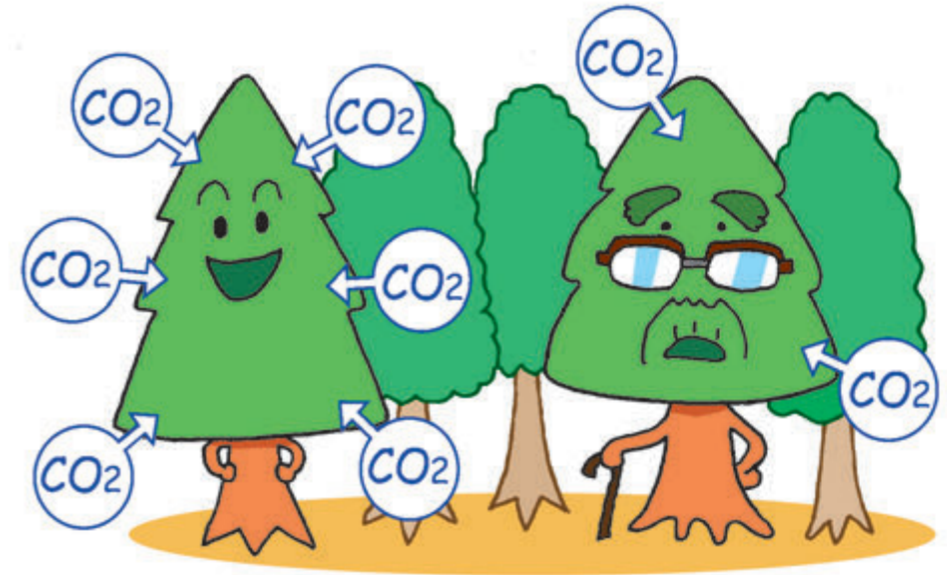


人工林の中の光が少なくなるため、下草がとぼしくなり、土が流れて土砂崩れの危険が増えます。

手入れされた人工林は、木の根が土をしっかりとつかみ、下草が繁茂することで土砂崩れを防ぎます。

**だから人工林に手入れが必要なのです。**

●なぜ人工林の木を使う必要があるのでしょうか



若い木は成長とともに、地球温暖化の主な原因となっている二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をたくさん吸収します。年老いた木を使い、新たに木を植え育てることで人工林はCO<sub>2</sub>をたくさん吸収し続けます。

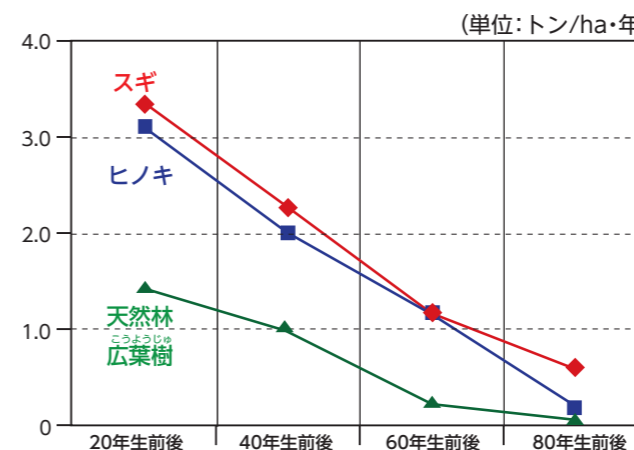


スギやヒノキの人工林は広葉樹林よりも多く炭素(C)を吸収(固定)します。



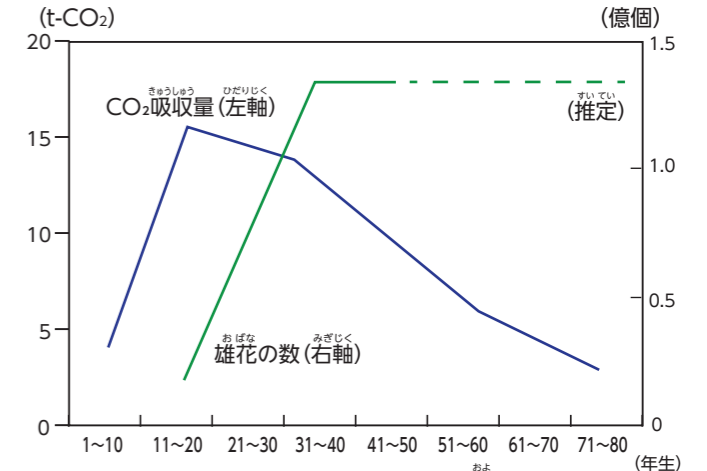
スギは30年生を越えると、花粉の量が増えます。

1年当たりのおおよその炭素吸収量 (単位:トン/ha・年)



出典:「森林総合研究所 HP 掲載データ」を基に作成

スギのCO<sub>2</sub>吸収量及び雄花の数 (ha当たり)



出典:「平成16年度 森林・林業白書」及び「スギ花粉動態調査平成元年度報告書」(林野庁)